



ここ最近豚コレラのニュースが新聞、テレビで大きく報じられている。2月の下旬では3万頭を超える豚たちが「殺処分」されたともいう。一方動物虐待に関するニュースも次々と報じれ、映像として私たちの眼に飛び込み、怒りとやりきれなさが沸き起こってくる。

私はこの対比された「いのち」の重さの受け止め方の現実に、人間の生々しい姿を見たような気がした。もともと「いのち」とはこの地球上において等しく重いものであると思っているが、どこまでも人間の都合によって左右されてしまうものなのだと、改めて認識した次第である。

「殺処分」とりわけこの言葉の使い方に、私は怒りにも似た感情を抱いてしまう。「いのち」を処分するとは何事なのだと。まるで単なる「もの」を処分する感覚ではないか、そう思えてくるのである。「いのちがみえない」時代。私はかねがねそんな思いを抱いてはいたが、毒ガスや注射で苦しんで死んでいく豚の姿は見えてはこない、豚肉としてスーパーにきれいにラッピングされ売られているものしか見えていないのだ。

私は思うのです。人間が人間を虐待することも日常的に起こり事件化している現実には、ある意味私たちのこうした日常の感覚から生まれ出る、悲しくも当然の結果なのではないのかと。

私たちは他の「いのち」をいただきながら生かされている存在なのだという謙虚な思いと、感謝の思いを忘れてはならないと思う。ペットを慈しむ思いも、食としていただく豚への思いも本来同じものでなければならぬと思うのである。

今回の一連のニュースの中で、唯一救われた思いがしたことは、絶望のどん底にある養豚業者の「私も豚と一緒に埋めてほしかった」という言葉であった。

## 夕暮れ時に思う

Y・I



私は今年で八七歳になります。そろそろお迎えの来る頃かと、何となく不安で落ち着かない毎日を送っています。

主人は私と同じ年ですが、すっかり元氣も無くなり、多少認知も入ってきています。今は主人と二人きりの生活で、不安と言えばこのことかもしれません。私が先に往くか、主人が先に往くかはわかりませんが、この先の生活が見えてこないのです。

できるだけ子供たちの世話にはなりたくないし、そうかといって互いを支えて生きていく自信もなくなってきました。

若いころには目先のことだけしか考えずがむしやらに生きてきました。が、年とともに何か自分の人生に物足りなさを感じるようになってきました。

時々ご院さんにお話を聞いて、心が落ち着くこともあるのですが、やはり煩惱具足である身は、ごまかすことも安心が得られません。

死んだら終わり、生きていくうちに好きなことをやると、自分が楽しくなれること「をやる」とするのですが、それも一時の楽しみだけで、私の人生を解決してくれるものではありませんでした。

主人に話をしても、いつかごに無関心で、孤独感さえ覚えてしまいます。皆さんはどんな思いで現在を生きていらっしゃるのでしょうか。周りの人たちがいつの間にかこの世を去られているのに気が付くと、さみしくてやりきれない思いになってしまいます。居場所があつてないような人生をあてもなく歩いているような気がします。

たれの人も 早く後生の一大事をこころにかけて」といふ、御文さんから聞こえてくる呼び声が今、私の心にやと届いてきたように思われてくるのです。

# 今月の掲示板

生死しうじ一如いちによ

生死は二つに分けることができない絶対を意味する。如は異なることのない真実を言いつ。

空のみが我等にあらず。

死もまた我等なり。

我等は生と死を併有するものなり」 清沢満之

## 「光受寺春の催し」をちよいとのおぞき見。

梅の花も順調に開花を始めました。いよいよ光受寺の境内が日ごとに華やかになります。

多くの参詣者の皆様にもひとひらの感動を与えられたらとても幸せです。

また観梅会のほかにも、秀瑤書院展、雛人形展、書画展などの催しも行っています。

ぜひこの期間に光受寺へ足を運んでいただければ、と心より願いつつお待ち申し上げております。

### 開催期間

2月23(日)～3月10(日)まで

10時～14時まで

秀瑤書院展・書画展は3月1日(金)～3月10(日)まで



## 第二十四回秀瑤書院展



ミニギャラリー  
(聴風庵)では



朝ドラで話題になった柳原白蓮の書など約20点展示してあります。



### 堀カヨ子 作品展



庄巻の7段飾りと、手作りの内裏雛。



つり雛も展示。

私たちは死んだら終わり「夕暮れ時に思う」という伊藤三枝さんの思いにどこか共感を覚えますが、生きていくことへのみしか価値を見出せないものです。生と死に「線を引き、自分にとって都合の良い生きることのみに心を砕き、自分にとって都合の悪いことには背中を向けて、「死」を遠ざけよう遠ざけよう」といっています。

通称「白骨のお文」には「たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて」とありますが、「死」から逃れることのできない生あるものとして「この死のある生」の今をどう生きるかが問われています。後生の「一大事」とは死で終わりと成る生を超えることだと思つたのです。

## 雑感

「ここ数年又ジロ」がやってきました。数年間までは人懐っこく近くまでやってきて、写真でメジロストリーなどを作れたのですが、春の楽しみが半減して、さみしい思っています。

「朝ドラ」が縄張り張っているようで、生き物の厳しい現実がここにあるようです。

## 四月の学習会

四月十二日(土)七時～八時半

## 記事募集中

どんな話題でもありがたいです。日頃の思いを、文章にまとめてみませんか。趣味など聞かせていただくだけでも結構です。よろしく。